

## ニホンイタチ

イタチを見ました。澄川森林基地での昼下がり、一人でメインテーブルに腰かけて何気なく薪積みの方向を見ていましたら、イタチがこの歩きでキャリコ駐車場から薪材に向かって通路を横切りました。テンかも、とも思いましたが、地べたをこの歩きをするのはイタチにちがいなと判断いたします。2018年5月7日の昼下がりと記録しておきます。咄嗟のことでカメラはポケットにありましたが、撮影はできませんでした。上の画像はネットから拝借しました。



イタチは肉食性の小獣で、♂♀の大きさが違い♀の方が小さいとのこと。親戚筋にテン、オゴジヨ、イズナやミンクがいます。いずれも体形は胴体が細長く、脚が短くて、行動は敏捷です。夜行性で昼間はあまり行動しません。ですからこの澄川での出会いは珍しい体験なのです。テンはイタチより一回り大きく、体色も少し違います。左下にキテンとスズテンの画像を示しておきます。

天敵としてワシ、タカ、フクロウ等の猛禽たちと澄川森林ではキツネやタヌキ、それにアライグマがいると思うので、それらの目をかいくぐって生きているしたたかさを思わざるをえません。「イタチの最後っ



屁」といわれているように、天敵等から襲われた危機にさいして悪臭の屁で撃退するらしいのですが、その面ではアメリカ大陸に棲む警戒的な外見のスカンクが有名ですが、イタチの外見は警戒体色ではありませんので、「屁」の効果がとれほどのものはよく分かりませんが、小さいなりに生き延びているのですから、それなりの効果があるものと思われま

す。他方ではネズミやヘビを食べてくれる有難い存在でもあったのです。分布は日本全土のようです。ユーラシア大陸にも広く棲みましてチョウセンイタチとして和名は区別しています。南北アメリカにも分布しているらしいです。

九州の故郷ではニワトリの飼育を担当していて、イタチには散々な目にあわされていましたので、恨み辛みの記憶ばかりです。いかにしてニワトリどもをイタチから守るかに苦心させられました。

小さな隙間からでも鶏舎に侵入し、止まり木で眠っているニワトリどもを瞬く間に全滅させてしまうのですからたまりません。終にはバタリー式鶏舎を建てることになったことでした。

(記 高野)

